

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171500313		
法人名	有限会社サラサホーム		
事業所名	サラサホーム		
所在地	中津川市手賀野403番地の5 (電話) 0573-65-1140		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年1月25日	評価確定日	平成21年3月10日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から20mくらい南に入った市の中心地からやや離れた場所にあり、元病院を改築した頑丈な設備の整ったホームである。広いロビーと日当たりのよい居室から、遠く見渡せる恵那山・南アルプスの山々のゆったりした自然環境が生活空間のゆとりと癒し効果も加えている。利用者の明るい笑顔と豊かな人生により、一人一人にそれぞれの役割を担いながら、ゆとりある環境の下で職員とともに暮らしを支え合っている。職員の豊かな介護力と管理者の影の力に支えられて、きめの細かい介護サービスに取り組み、利用者に寄り添ったホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回の課題であった、包括支援センターとの関係づくりは、改善シートを作成して取り組まれていた。改善期間は2~3ヶ月、内容は包括支援センターの職員にグループホーム部会に出席を依頼したり、栄養相談や交流などして、現在に至っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 今回の自己評価は全員で取り組み、ケアの見直しに活用して、管理者がまとめた。この機会を、利用者の生活の質の向上、職員のケアの見直しの時期として取り組み、ケアに反映している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は2ヶ月に1度開催されている。前回の改善課題であった包括支援センターの職員も参加している。地域との係わり方も、管理者や職員の努力により、広範囲な地域の自治会（46地区）にチラシ配布や認知症予防体操の取り組みにも協力を得ることができ、より密に、地域力を活用した連携ができ、ケアサービスに結び付けている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 年に1度、ホーム独自のアンケートを取り、家族や利用者からの意見や要望を聞いたり、毎月のホーム便りに意見欄を設けている。家族会や、家族の代表者が運営推進会議にも参加して、意見や要望を出してもらい、ホームの運営に役立っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 運営推進会議を基に、地域とのつながりができ、災害時の地域の避難場所や在宅高齢者の一時預かり場所になっており、大切な地域貢献をしている。体験学習・地域の消防訓練・夏祭り・敬老会等のホームの行事には、地元の人も参加し、日ごろから交流をしている。

【情報提供票より】 (平成 20 年 12 月 31 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 11 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	14 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	4 階建ての	1 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	36,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 31 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	3 名	要介護2	11 名			
要介護3	1 名	要介護4	3 名			
要介護5	名			要支援2	名	
年齢	平均	85 歳	最低	70 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田口医院
---------	------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で自立した生活が送れるように支援し、総合的なサービスを提供できることを念頭に置き、地域の中で暮らしの拠点となるように表現されたホーム独自の理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、職員と管理者は話し合いの場を設け、理念を共有し、ケアの実践に生かしている。常時、申し送り時間等を活用して、確認している。理念は廊下や事務室内に掲示されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議で情報を得て、地域活動の場を活かし、災害時の避難場所・在宅高齢者の一時預かり場所になっており、大切な地域貢献をしている。ホームの夏祭り・敬老会、地域の消防訓練等地元の人との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票の記入は全員で取り組み、管理者がまとめた。この機会を、利用者の生活の質の向上、職員のケアの見直しの時期として取り組み、ケアに反映している。	○	経営者も含めた職員の話し合いを行い、さらに、ホームの質を向上させるための取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議録は各階の入り口に置いてあり、いつでも閲覧出来るようになっている。会議では、気軽に意見を述べられるよう雰囲気ができ、地域からの情報も得て、サービスの質の向上に繋げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議以外にも相談や研修会の情報や連絡が入る関係ができている。市の介護相談員が隔月に2名来所して、利用者の相談事や話を聞き、相談員の意見を参考にケアに役立てたり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回ホームだよりを発行し、家族に報告している。また、家族の訪問時には、必ず声をかけて、意見や要望を聞く話し合いを設けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、年に1度は家族アンケートも実施して、より良い運営に反映できるように努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が、きめ細かく職員の意見や悩みや相談事に耳を傾けて、働きやすい職場づくりに心がけて異動や離職を最小限に抑える努力をしている。夜勤時の利用者の急変・対応困難時には管理者が素早くホームに到着し、職員を支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営者や管理者が職員教育にかける熱意は強く、綿密な内部・外部研修計画が作られ、実施されている。資格取得が啓発され、基本給に反映される。各種のマニュアルも整備され、職員が均一の支援が出来るように配慮してある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会主催の研修や会議にも参加して、サービス・ケアの質の向上に取り組んでいる。他の施設見学で交流・意見交換・情報交換も予定している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後1ヶ月位は、利用者の精神状態や身体の様子を見ながら、本人や家族の意向に沿いながら、安心してホームの生活になじめるようにきめ細かい対応に心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、利用者を人生の大先輩として敬い、生活の中の知恵や地方の郷土料理などを四季を通して職員は教わっている。家族の一員としての心配りで日常生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いは日常生活のケアをしている中では把握しているが、ケア記録の中に埋もれてしまっている。	○	苦勞して得られた貴重な利用者の思いや意向を職員間でつないでいけるような記録の工夫に期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回の担当会議で意見交換を行い、利用者や家族の思いや意向を反映した介護計画を作成している。一人ひとりの介護目標、ケアのポイント・注意点を一覧表にして工夫した取り組みがしてあり、利用者の情報の共有化が図られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一覧表に基づいて介護計画を1ヶ月毎に会議を開いて見直し、検討している。また、環境や健康状態などに大きな変化があった時には、家族やかかりつけ医師を交えて見直し、了解を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、柔軟に対応している。通院介助や外食・喫茶店へ同行して見守りをしている。行楽や外出は全員で参加し、思いを共有出来るように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望を大切にして、かかりつけ医とは連携を取り、継続している。月に2回、ホーム内で歯科医や協力医師の診察があり、健康状態を管理している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は出来るだけ早い時期から、本人・家族の意向意思を尊重し、家族とかかりつけ医とホームでできる範囲内の対応を相談しながら、方針を共有している。	○	利用者のレベル低下や重度化してきた場合の健康管理や急変時に職員が戸惑うことなく、共通の認識で対応出来るようその取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの設備は十分にあるものの、利用者の排泄レベルに応じてポータブルトイレが居室内に設置し、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食を自室で食べたい利用者には、居室で配膳して、職員が寄り添い介助をしている光景がみられた。天候や利用者の希望・要望に応じて、散歩や外食の外出支援を行っている。利用者の生活歴から、黒電話と電話帳を用意し、精神的安定が得られた人もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立メニューの選択や里芋入りみそ田楽やほうば寿司と季節に応じた行事食を取り込み、食生活を楽しんでいる。昔食べた物や地方の郷土料理を利用者の知恵や工夫で再現してしている。食事中も方言が飛び交い、穏やかな風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時のフットケアは数年来続けられ、足の指や爪の皮膚病は、きれいに治癒している。また、水虫予防や足のむくみもとれて、改善に効果が上がっている。入浴時間を活用して利用者と向き合い、思いや要望・意向を聞きだしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの近くにある大型喫茶店のモーニングサービスは好評で、参加希望も多い。月1回の外食会、近くの国立公園へホームで作った手作り弁当持参のドライブ、季節の花見や紅葉狩り等と月1回は外出を計画して気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スーパーや近くのデパートでの買い物、美容院など要望を聞きながら、できる限り戸外に出るように支援している。	○	寒くて外出する機会が少なくなる冬場には、外気浴等が出来る工夫があるとよい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常階段は建物の外側に設置してあり、危険防止のため階段口は施錠してあるが、玄関の出入り口は、鍵をかけないケアの取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回の防災訓練を行い、頑丈な鉄筋コンクリート造りのため、地域の防災拠点となっており、大型水槽も設置してある。夜間を想定した訓練を行い、家族・職員、地域の人も参加した。廊下には防災ヘルメット、非常用品袋が数個用意してある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表には3食の食事量と水分摂取量が記録され、一人ひとりに必要な食事摂取が把握され、きめ細かに栄養面の支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元病院を改築したホームはゆったりと広く心地よく、快適である。1階のロビーには季節の花が大きな花瓶に活けてあり、暖かく人を迎えている。南向きの大きなガラス窓は採光・換気もよく、気持ちよく生活が出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは無料で利用でき、利用者は気に入った家具を自宅から持ち込み、使いやすいように配置してある。居室の入口には、職員の手作りの暖簾が掛けてあり、元の病室らしさ取り除く工夫がしてある。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。